

第7回推進委員会
平成31年3月28日
資料 1

## 平成30年度 生物多様性保全に関する主な実施施策

### 【神戸市生物多様性の保全に関する条例・規則施行後の状況】

神戸市生物多様性の保全に関する条例（以下「生物多様性条例」という。）については平成29年10月、「神戸市生物多様性の保全に関する条例施行規則」（以下「生物多様性条例規則」という。）については平成30年5月に公布し、平成30年6月より全面的に施行している。

#### 1. 生物多様性条例に基づく届出

(1) 土地の形状の変更及び工作物の設置等に関する届出（生物多様性条例第9条第3項）

18件（平成30年6月から平成31年2月末に受理）

(2) 指定外来種の販売等の届出（生物多様性条例第13条第1項）

0件

#### 2. 「生物多様性条例」についての広報・啓発活動の実施

- ・神戸市ウェブサイトへの掲載
- ・開発事業者、ペットショップ等に対する手引き・チラシによる周知
- ・パンフレットによる広報（公共施設等での配架、懇談会等での配布、団体への送付等）
- ・パネル展示（花時計ギャラリー、市民ギャラリー、みなとギャラリー等）
- ・出前トークにおける広報
- ・「エコタウンだより」 「エコエコ」 「月刊KOBE グー」、「婦人こうべ」への掲載

#### 3. 希少野生動植物種・指定外来種について

- ・生物多様性条例規則第3条（別表1）により指定する希少野生動植物種（37種）、同第4条で指定する指定外来種（アカミミガメ）については、今年度、変更はない（生物多様性神戸プラン生き物評価会議（平成31年1月10日開催）においても変更の意見はなかった。）。

#### 4. 今後の課題・予定

- ・生物多様性条例及び同規則についての更なる広報・啓発活動の実施。
- ・生物多様性の主流化、生物多様性保全のための活動の活性化・連携の推進。
- ・希少野生動植物種について、生物多様性条例に基づく届出の審査時等に使い易いデータベースの構築が必要。

## 【生物多様性神戸プランに基づく施策の推進】

### I 場をまもる・つくる

#### 1 外来種対策

##### (1) アカミミガメ対策

###### ○環境省・明石市等と共同した生態調査及び防除（明石・神戸アカミミガメ対策協議会）

平成 28 年度より環境省や明石市と連携し、神戸・明石両市域を流れる明石川水系や瀬戸川水系を中心にアカミミガメ対策を実施している。

平成 30 年度は、これまでの調査で明らかになった河川におけるアカミミガメ防除に関する知見（防除範囲、時期、防除優先順位等）をとりまとめ、防除手順を作成した。この防除手順に従って試験的に防除を実施するとともに、効率的な防除手順確立のために必要なアカミミガメの移動範囲等を把握するための継続調査を実施した。

また、水中カメラによる生物相調査や、市民による防除活動の技術的支援と啓発活動を実施した。

###### ・瀬戸川水系におけるアカミミガメ行動追跡及び防除の実施

平成 28 年 6 月に標識放流したアカミミガメ個体を追跡するために、瀬戸川全域を対象とした捕獲調査を実施し、アカミミガメの行動範囲を把握した。それと同時に、アカミミガメ防除も実施し、その効果について検証した。

標識個体の再捕獲地点を年毎にみると、放流地点から周辺の池や川に移動している様子が見られることから、水域を超えた防除が必要であると考えられ、河川全域を対象とした明石・神戸アカミミガメ対策協議会（以下、「アカミミガメ対策協議会」という。）による共同防除を実施したことによる効果がみられる。

###### ・谷八木川水系におけるアカミミガメ全域防除の試験的实施

防除手順に基づき、小規模河川である谷八木川水系において、アカミミガメ全域防除を実践し、その効果を検証した。

河川では誘引罟を、ため池では日光浴罟を中心に用いて防除実施し、日光浴罟は有効な手法であることがわかった。谷八木川では全域防除を試みたが、平成 30 年度時の CPT（Catch Per Trap; 1 誘引罟あたりの捕獲個体数）は、防除開始時（平成 25 年度）と同程度の値を示した。

###### ・明石川水系におけるアカミミガメ部分防除の試験的实施

防除手順に基づき、大規模河川である明石川水系の、ニホンイシガメ等が見られる生物多様性保全上重要な地点において、アカミミガメの部分防除（防除エリア：伊川と櫛谷・友清川）を実施した。その CPT は 2 つのエリアで低い値を示した。

###### ○市民との協働による防除

市民活動団体への補助事業によりアカミミガメの防除を実施した。今年度は 14 団体が登録し、12 団体が防除を実施した（2 団体は天候不良により実施できず。）。防除の概要及び結果は表-1 のとおり。

表-1 市民との協働による防除の概要及び結果

協働団体	地点	活動日（活動回数）	講習会 参加者数	アカミミガメ 捕獲数
玉ーアクアリウム	非公開	6/1～6/3(1)	12人	24
NPO 法人グループ「わ」川づくり研究会	非公開	5/14～7/22 (3)	7人	16
北須磨野外活動グループ	非公開	7/1～9/26 (3)	24人	7
G1 グループ	非公開	7/22～7/25 (1)	5人	18
KOBE アクティ部	非公開	6/18～9/11 (8)	16人	41
特定非営利活動法人輝もとやま	非公開	7/3～8/9 (3)	10人	36
明石川タコピー倶楽部	非公開	6/23～9/24 (2)	7人	40
平野ふれあいのまちづくり協議会	非公開	7/19～7/21 (1)	170人	29
神戸の自然を守る会ターゲット・ハンター	非公開	7/20～9/15 (7)	10人	36
田井自治会	非公開	7/18～7/20 (1)	6人	40
田井水利組合	非公開	9/4～9/6 (1)	6人	40
福田川子どもボランティアフクレンジャー	非公開	11/17～11/19 (1)	10人	3
合計			283人	330匹

表-2（参考）市民団体によるアカミミガメ防除数と市全体のアカミミガメ防除数

	市民団体によるアカミミガメ防除数	市全体のアカミミガメ防除数	市民による防除数の占める割合
平成28年度	63匹	1654匹	3.8%
平成29年度	96匹	1022匹	9.4%
平成30年度	330匹	1593匹	20.7%

## (2) 外来植物対策

平成 28 年度の外来種対策推進プロジェクトチームにおける検討結果に基づき、外来植物では、主にオオキンケイギク対策に取り組んでいる。

### ① 市域でのオオキンケイギク防除実施状況

- ・施設管理の一環として、管理者が実施する年 2 回程度の草刈の際に（選択的ではないが）刈り取った。
- ・平成 29 年度より市管理地・市施設の一部において、試行的にオオキンケイギクを根から抜き取る作業を業者発注している。平成 30 年度にける実績は、表-3 のとおり。

表-3 市管理地・市施設におけるオオキンケイギク防除（平成 30 年度）

防除実施場所	箇所数	防除量（概数）
総合運動公園（須磨区緑台）	2 箇所	3.2 t
北区山田町	1 箇所	0.1 t
須磨区弥栄台	1 箇所	0.4 t
須磨区横尾	2 箇所	0.1 t
須磨区高倉台	4 箇所	0.2 t

- ・除草剤※の散布を試行した市施設がある（**非公開**）。
- （※除草剤：広葉雑草に効果的で、防災用に植栽されたイネ科植物には影響が少ないもの。）
- ・市補助金（生物多様性保全活動補助事業）を活用した市民団体による防除が実施された（平成 29 年度 1 件、平成 30 年度 2 件）。



市民によるオオキンケイギク防除活動の様子

### ② オオキンケイギク防除に関する広報・啓発等

- ・市長会見・記者資料提供の実施（H30 年 5 月 31 日）
- ・出前トーク等による広報・啓発の実施

#### <オオキンケイギク防除についての協力周知内容>

- 市民：オオキンケイギクを持ち帰ったり、植えたりしない。
- 土地所有者：敷地内で見かけた場合は、抜き取りや刈り取りをする。
- 公園管理・河川清掃等の活動団体：活動地域で見かけた場合は、抜き取りや刈り取りをする。

#### 【留意点】

- ・根から抜き取ると効果的である。抜き取りが難しい場合は、刈り取り（特に花が咲く前）でも拡散の防止につながる。
- ・中央分離帯、道路法面など、危険な場所では作業を行わない。
- ・オオキンケイギクの種子が飛び散らないように、ごみ袋等に入れ、枯らせた後、処分する。

### (3) ヒアリ等有害外来生物対策

平成 29 年 5 月の国内初のヒアリ発見事例以降、モニタリング調査やヒアリ等定着阻止対策などに取り組んでいる。

#### ① モニタリング調査

今年度、下記の調査においてヒアリ及びアカカミアリは発見されていない。

- ・コンテナヤードにおける定期調査（1 回/月）
- ・広域調査（ポートアイランド、六甲アイランド全域と臨海部及び内陸部のデバン倉庫周辺）（2 回/年）

#### ② ヒアリ等定着阻止対策

市内運送業者等からのコンテナ内にヒアリ等の疑いがあるアリ発見時の通報に対応した（平成 30 年度 23 件）。そのうち 2 件はアカカミアリの発見であったが、「神戸市ヒアリ等対策マニュアル」に基づき迅速に防除を完了し、それ以降の新たなヒアリやアカカミアリの発見事例はない。

#### ③ 「神戸市ヒアリ等対策マニュアル」の改訂

「第 3 回神戸市有害外来生物被害防止に関する有識者会議（平成 30 年 3 月 20 日開催）」における意見を踏まえて策定した、「神戸市ヒアリ等対策マニュアル（第 1 版）」に、神戸港におけるヒアリ等の水際対策、定着阻止のより具体的な方法を追加記載し、平成 31 年 1 月、同マニュアルを改訂した。

## 2 在来野生鳥獣被害対策

### (1) ニホンジカ対策

神戸市においては北区藍那地区等でニホンジカの生息が確認され、同道場地区では市外からの侵入の痕跡も確認されているが、現時点では大きな被害は確認されていない。今後、市域内にニホンジカの侵入・定着が進んだ場合、他の地域の事例から、生態系のみならず、農林業、防災、観光、健康被害など多方面で大きな影響が想定される。

今年度は、六甲山系へのニホンジカ侵入・定着を未然に防ぐために講ずべき施策を検討した。

#### ・ニホンジカの分布状況

神戸市北区道場町から六甲山に向けた分布状況については、定点カメラでの撮影頻度から生息密度は低い分布を拡大しつつあることが考えられる。

山田町藍那地区から六甲山に向けた分布状況については、継続して捕獲を行っていることもあり、生息地の拡大は縮小傾向である。

北区唐櫃地区で新たに樹皮剥ぎが発見された箇所があり、その周辺の調査を重点的に実施した。

#### ・道場地区における効率的な捕獲手法の検討

生息状況を調査しながら、また、餌付けをしながら捕獲を進めることも考える必要がある。

#### ・六甲山への侵入の監視・防止手法の検討

道場地区については、西宮山口 JCT 付近を通り、市内に再侵入するルートが考えられることから、西宮市とも連携した侵入防止策等を検討していく必要がある。

## II 人をそだてる

### 1 神戸市生物多様性シンポジウムの開催実績

○テーマ：「生きもののつながり～未来に向けて～」

○日時：平成30年11月10日（土）10：00～12：30

○場所：神戸市立王子動物園 動物園ホール

○主催：明石市、三田市

○参加者数：175名

○プログラム：

(1) 基調講演 「環境DNA：水をくんで生物分布を知る新たな手法」

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 源利文准教授

(2) 活動発表

「神戸市立相楽園におけるニホンイシガメの保全活動について」：神戸山手女子高等学校

「野鳥園の池にはなぜ魚がいないのか」：神戸市立六甲アイランド高校 自然科学研究部

「きのこ歴15年の活動報告」：神戸学院大学附属高等学校 理科部 和田匠平氏

「大学生が学びつないでいく、神戸の森と私たちの関わり」：神戸学生森林整備隊 “こだま”

「アカミミガメ対策市境を越える」：明石市市民生活局環境室環境総務課

「三田市皿池湿原の保全活動について」：皿池湿原の守り人

(3) パネルディスカッション

・コーディネーター：大阪産業大学人間環境学研究科 教授 花田真理子先生

・登壇者：神戸山手女子高等学校1名、神戸市立六甲アイランド高校自然科学研究部1名  
神戸学院大学附属高等学校理科部 和田匠平氏、神戸学生森林整備隊 “こだま”  
2名、神戸市環境局環境保全部長

(4) パネル展示

皿池湿原の守り人、玉一アクアリウム、灘校生物研究部、東お多福山草原保全・再生研究会、兵庫運河の自然を再生するプロジェクト、公益財団法人ひょうご環境創造協会、山田川を美しくする会

(5) 参加者アンケート結果より

- ・当シンポジウムについて、回答者全員から肯定的な評価が得られた。
- ・参加者の年齢は、30代以下が44%、60代以上が18%であり、過去の生物多様性シンポジウムより若い世代の参加者が多かった（＜参考＞過去の生物多様性シンポジウム参加者の年齢：H29年度30代以下32%、60代以上40%、H28年度30代以下18%、60代以上77%）。
- ・アンケートと合わせてMY行動宣言※を実施し、103名から宣言が得られた。

※MY行動宣言：「国連生物多様性の10年日本委員会」が推進する取組み。国民一人ひとりが生物多様性との関わりを日常の暮らしの中でとらえ、実感し、生物多様性を守るために自分達ができるアクションを宣言するもの。



パネル展示



パネルディスカッション

## 2 市民向け観察会の実施

### (1) 神戸市と三田市共催の観察会

平成 30 年 3 月に神戸市と三田市で「神戸市と三田市の里山等自然環境の保全及び活用に係る連携・協力に関する協定」※を締結したことから、皿池湿原、及びキーナの森における観察会を神戸市と三田市で共催し、両市から参加者を募集した。実績は以下の表-4 のとおり。

※「神戸市と三田市の里山等自然環境の保全及び活用に係る連携・協力に関する協定」

#### ○趣旨

神戸市と三田市、それぞれの有する生物多様性に富んだ里山等自然環境を保全し、それらの貴重な資源を有効に活用するにあたって、互いに連携・協力した取組を実施する。

#### ○里山等自然環境の保全及び活用の主な内容

- ・シンポジウムの共同開催
- ・生物多様性の異なる互いのフィールドでの自然観察会等の実施
- ・里山への移住促進における PR 等の協力

表-4 神戸市と三田市共催の観察会

開催場所	皿池湿原（三田市テクノパーク）	キーナの森（北区山田町藍那ほか）
開催日	平成 30 年 6 月 17 日(日)	平成 30 年 10 月 6 日(土)
参加者数	34 名	35 名
主な観察種	植物：トキソウ、カキラン、オオバノトンボソウ、ノハナショウブ、ミズギボウシ、シライトソウ、モウセンゴケ、オニスゲ、オオミズゴケ 動物：ハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ	植物：オケラ、キキョウ、コシオガマ、タチカモメヅル、ツチグリ、アリマグミ、コナラ、クサギ、ネズミサシ



皿池湿原観察会



キーナの森観察会

### (2) 草原生植物観察会、親子向け自然体験プログラム

平成 24 年度より毎年、神戸ゴルフ倶楽部で観察会を実施している。今年度は、同場所での一般向け観察会に加え、親子自然体験プログラムも同時に開催した。

表-5 草原生植物観察会、親子向け自然体験プログラム

開催場所	神戸ゴルフ倶楽部（灘区六甲山町）	
対象	一般向け（草原生植物観察会）	親子（自然体験プログラム）
開催日	平成30年8月28日（火）	
参加者数	23名	18名
主な観察種等	マツムシソウ、オミナエシ、タムラソウ、カワラナデシコ、ツリガネニンジン	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居（低農薬・草刈等による管理のため、希少な植物が生育していることの説明等）</li> <li>・袋の中身を手探りで当てる</li> <li>・色々な形の葉を用いて作品づくり（悪天候のため、雨天プログラムとなった。）</li> </ul>



一般向け草原生植物観察会



親子自然体験プログラム

### 3 ペットショップを通じた外来種問題の啓発

平成30年6月の「神戸市生物多様性の保全に関する条例施行規則」施行前に、市内で登録されている動物取扱業者に対し、指定外来種（アカミミガメ）の販売に係る届出の周知、及びペット購入者へのペットの放逐禁止・終生飼養を呼びかけるチラシの配布依頼を実施した。

<神戸市からのお知らせ>

## アカミミガメを飼うときは…

アカミミガメ（ミドリガメ）は、「神戸市生物多様性の保全に関する条例」（平成29年10月制定）に基づき、「指定外来種」\*に指定されました。  
\* 国外又は神戸市域外の生態・生育地から、人の手によって神戸市内に持ち込まれた種で、神戸市が規則で指定します。

➢ **飼っているアカミミガメを野外に放さないでください。**  
 ➢ **アカミミガメが逃げ出さないように注意してください。**

アカミミガメを**意図的に野外に放す行為**に対しては、その行為の中止や原状回復等を求めることがあります。  
求めに及びない場合、氏名・住所・違反の事実等を公表することがあります。

## アカミミガメはなぜ指定外来種に？ —神戸の生態系に悪影響のおそれが…

アメリカからやってきたアカミミガメは、捕食者となる生きものが少ない日本の川やため池で増えています。神戸では、主に西区のため池や川で多く見られます。



▲ 西区の川で見られるアカミミガメ

水辺の植物や水生昆虫などを食べ、水辺の生態系を乱すおそれがあります。  
 また、ニホンイシガメ等在来のカメと、すみかや食べるものをめぐって競合します。



▲ ニホンイシガメ（神戸緑のリスト2015Bランク種）

裏面もチェック！ ➡

## アカミミガメを飼うときの注意点

（詳しくは販売店にご相談ください）

### 長生き、そして大きくなる

アカミミガメは30年くらい生きることがあります。  
 また、成長したメスでは、甲羅の長さが25cmを超えることがあります。  
 カメの大きさにあわせた飼育容器やスペースが必要になることを想定して飼育してください。



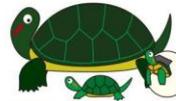
### 脱走にご注意！

脱走を防止するため、飼育容器の壁を十分な高さにするか、飼育容器にふたをして飼育してください。



### 数が増えても大丈夫ですか？

繁殖を行う場合は、数が増えても飼育できるか、引き取り手がいるか等をよく考えた上で行ってください。



【連絡先】神戸市 環境局 環境保全部 自然環境科 生涯課  
 〒650-0570 神戸市中央区加納町6-5-1  
 TEL: 078-322-5316 FAX: 078-322-6069  
 E-MAIL: biodiversity@office.city.kobe.jp

リサイクル選物 (A) KOBE 77  
CO2削減・環境配慮・安心の食料です。  
 UNESCO City of Design  
平成26年12月1日神戸市が正式に加盟  
 R100  
環境にやさしい消費行動を促す

ペット購入者への啓発ちらし

#### 4 小学校における生物多様性に関する学習の推進

##### (1) きせつの生きものさがしガイドの配布

神戸でみられる身近な生きもの 145 種について、見られる時期や場所、外見上の特徴や見分け方等を写真入りで記載した副教材「きせつの生きものさがしガイド」を作成し、小学 3 年生全員及び教職員（約 14,000 人）に配布した。

##### (2) 出前授業の実施

きせつの生きものガイドの活用を促進するため、小学校に外部講師を派遣し、身近な自然の観察についての出前授業を実施した。今年度は 13 校で実施した（平成 29 年度は 12 校）。



出前授業教材のビンゴカードの例



出前授業実施の様子

表-6 出前授業実施の小学校数

区	実施校数
灘区	3校
中央区	2校
北区	3校
長田区	2校
須磨区	2校(うち1校は春秋の2回実施)
垂水区	1校
合計	13校

#### 5 様々な世代を対象とした学習講座の実施

本市の「出前トーク制度」のテーマの1つとして、「生物多様性と私たちの暮らし」を掲げている。事前に参加者の知りたい事柄や年齢層等を聴取し、依頼団体の要望に沿った内容の講座となるよう努めている。今年度は、地域のまちづくり協議会や婦人会等において6件の出前トークを実施した。

またシルバーカレッジや中学校においても、生物多様性に関する講義を行った。

### Ⅲ 活動をつなぐ・ひろげる

#### 1 神戸市生物多様性保全活動補助事業

##### (1) 補助対象の拡大

生物多様性に対する市民の理解を深め、保全活動の促進を図るため、平成 27 年度より市内で生物多様性の保全活動を行う団体に活動経費を補助している。

今年度より、「活動地域における在来の生態系の保全に関する活動」及び「生物多様性の普及啓発に関する活動」を対象活動に新たに加え、また、申請団体の活動実績年数を問わないこととし、対象となる団体が増加した。

##### 【対象となる事業】

申請者自らが企画・立案し、神戸市内で実践される生物多様性の保全の推進に寄与する以下の活動とする。

- a. 「神戸版レッドデータ 2015」に記載のブラックリスト（生態系や地域固有の生きものに影響を及ぼす外来種リスト）掲載種のうち、外来生物種及び侵入警戒種の防除活動（ただし、防除後の処分方法等が事業計画により明らかである事業に限る。）
- b. 「神戸版レッドデータ 2015」に記載の希少種のうち、Cランク（神戸市内において極力、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種）以上の保全対策を行う野生動植物の保全・保護活動
- c. 活動地域における在来の生態系の保全に関する活動
- d. 生物多様性の普及啓発に関する活動

##### (2) 平成 30 年度補助実績

今年度は 7 団体に補助金を交付決定した。申請団体と対象活動については表-7 のとおり。  
(参考：補助実績 平成 27 年度 2 団体、平成 28 年度 4 団体、平成 29 年度 6 団体)

表-7 平成 30 年度 生物多様性保全活動補助事業実績

	申請団体	補助対象活動
1	玉ーアクアリウム	明石川調査
2	特定非営利活動法人豊かな森川海を育てる会	多聞台地区におけるオオキンケイギクの防除活動
3	特定非営利活動法人六甲山の自然を学ぼう会	希少種情報のため非公開の自生地の保全
4	大沢町地域事務局	地元農業における都市との交流を含めた生物多様性保全活動
5	特定非営利活動法人北神戸田園ボランティアネット	木こり体験 間伐材のチップを使ったカブトムシのお家作り
6	神戸市シルバーカレッジ学習グループ「ストップ・ザ・外来植物」	オオキンケイギクの抜き取り
7	神戸市シルバーカレッジ生活環境コース学習グループ「道草ハミング」	市内の小学校校庭の雑草調査と活用

## IV 恵みを持続的に活用する

西区・北区の農村地域、須磨・垂水沖の漁業地域は、神戸市域の食文化を支えているが、近年、耕作放棄地や空家の増加など、神戸の食と里を守る担い手が減少しつつある。

恵まれた環境を次世代に引き継ぐため、神戸産農産物の価値をわかりやすく消費者に伝え、地産地消や担い手の確保につなげる事業や、農村地域の利用を促進し、活性化する事業に取り組んでいる。

### 1 「食都神戸」の推進

○EAT LOCAL KOBE（神戸産を食べよう）の主な取り組み

#### ・食都神戸 DAY の開催

11月10・11日（土・日）、東遊園地において開催。「伝統食の継承」をテーマに食育研究者によるトーク、調理デモンストレーション、食育映画の上映等を実施した。

#### ・農漁業者、食関連事業者、消費者の交流会、農漁業体験イベントの実施

北区や西区の農家の方から農に関する話を聞き、現地に出向いて野菜・果物の収穫体験や、調理をするワークショップ、須磨海岸で地引網体験を行い、神戸の海や魚の話聞くイベント開催等、市内の生産者と消費者、食関連事業者をつなぐ取り組みを実施した（平成30年度計10回実施。）。

#### ・ファーマーズマーケットの開催

「生産者と消費者を継続的につなぐ」ことをコンセプトに、神戸市内を中心とした旬の食材、神戸産の野菜等を使用した朝食、農家と物販・飲食店がコラボした商品などを東遊園地等において提供した（平成30年度計57回実施。主に土曜日開催。各回約30店舗出店。）。

### 2 神戸・里山暮らしの推進

#### ・農村定住促進コーディネーターの配置

移住希望者から相談を受け、住居や農地の情報を提供し、農村地域の空家や地域の人たちとのマッチングを行い、移住・定住を推進している。また、移住後も相談にのるなどのフォローを行っている。

#### ・里づくりの拠点施設等改修支援事業

里づくりの拠点施設等改修に要する費用に対し補助を行っている。

【補助率】対象経費の3分の1以内

【補助上限額】交流施設型 上限333万円、  
定住・起業型 上限100万円

【活用実績】10件

## V 情報をつめる・つたえる・みせる

### 1 みんなでつくる KOBE 生きものマップ

#### (1) 概要

神戸市内の野生動植物の目撃情報を、インターネットを利用し、みんな（市民・市民団体・行政等）で集めてみんなで使う情報共有システム「みんなでつくる KOBE 生きものマップ」を平成 23 年 7 月より運用を開始している。

目撃情報の投稿数は昨年度すでに生物多様性神戸プランの目標である 8,000 件（目標年次：2020 年）を上回っている。

#### (2) 進捗状況

##### ① 会員登録者数

89 名（平成 31 年度 2 月末現在。今年度は 5 名が新規登録。）

##### 2 目撃情報件数

11,383 件（平成 31 年 2 月末現在。今年度 2 月末までの登録件数 1,058 件）

### 2 神戸版レッドデータフォローアップ調査

「神戸版レッドデータ 2015」に掲載している希少種の最新の生息状況を確認するため、専門家による生物調査を実施した。

#### (1) 調査内容

##### ○ ルートセンサス調査

あらかじめ設定したルート上に生息している動植物を調査

##### ① 希少種情報のため非公開

##### ② 希少種情報のため非公開

##### ○ ホットスポット調査

生物多様性が高い、あるいは希少種が集中していると思われる場所における生物調査

##### ① 希少種情報のため非公開

##### ② 希少種情報のため非公開

#### (2) 調査結果

各調査地における主な確認種は表-8のとおり。

表-8 各調査地における主な確認種

	場所・実施日	確認種
ルート センサ ス調査	希少種情報のため 非公開 実施日 2018. 10. 12	<植物> 希少種情報のため非公開  <動物> 希少種情報のため非公開
	希少種情報のため 非公開 実施日 2018. 10. 11	<植物> 希少種情報のため非公開
		<動物> 希少種情報のため非公開
	ホット スポット 調査	希少種情報のため 非公開 実施日 2018. 9. 19
希少種情報のため 非公開 実施日 2018. 9. 21		<植物> 希少種情報のため非公開

### 3 環境DNA調査

#### (1)平成30年度の環境DNA調査の内容

##### ①希少種対象

六甲山地においてヒダサンショウウオ（神戸市レッドデータAランク）の生息実態調査を実施した。その結果、既知の生息情報があったエリア以外でも、新たな生息を確認できた。具体的な調査方法は次のとおり実施した。

- (ア)既知生息地の標高・平均傾斜角度・植生などから、ヒダサンショウウオの生息に適した環境条件を抽出し、条件に適合する六甲山地のエリアで採水し、環境DNA分析を実施。
- (イ) (ア)で、ヒダサンショウウオのDNAが検出されたエリアの上流域を、人が踏査することによる生息調査を実施。
- (ウ)ヒダサンショウウオの生体を発見することで生息を確認。

## ②外来種対象

アカミミガメ対策協議会や市民等と防除に取り組んでいるアカミミガメについて、防除による減少効果を検証した（防除前後の調査による半定量的な検証）。

## (2)環境DNA調査結果の活用、公表等

- ・今年度の調査結果については、第66回日本生態学会（平成31年3月19日）で発表した。
- ・環境DNA調査で得られたデータについては、他の調査データと同様に蓄積し、外来種の防除の検討、神戸版レッドデータの見直し、開発等の外的要因による希少種の減少を回避・低減するため等の資料として活用していく。